

小倉記念病院 循環器内科だより

# つなぐ

Vol.29

2019.8月

当院の下肢動脈へのカテーテル治療が今年8月に1万例を突破した。

カテーテルは、1964年アメリカのチャールズ・ドクターが脚を切断する寸前の女性に対し、血管を拡張させる手術を成功させたことに始まる。当時、従来の外科手術による進歩を望む外科医たちから大きな反発が起こった。しかし彼は、この治療法を広めるため積極的に講演会や、デモンストラクションを行い、血管内治療の進歩を促した。1977年、ドイツのゲルンツィヒが冠動脈を風船で拡張する手法を開発し、心臓の血管内治療を開始。彼もドクターの手技を学び、その影響を強く受けていたと言われている。

日本でも下肢動脈へのカテーテル治療が開始されるとドクターと同じように様々な批判があった。それでも、当院循環器内科 曾我芳光はドクターと同じ道を選んだ。いくつもの論文を発表し、積極的に講演も行い、5年前からカテーテルのワークショップを毎週のように開催している。これまでの見学者は1000名を超え、多くの病院がこの治療を行えるようになり、下肢動脈へのカテーテル治療の和は全国へとつながっていった。

私たちは、挑戦をやめない。新たな道は、挑戦を繰り返すことでしか切り開かれないことを、カテーテルの歴史が証明している。



